2023 年度
事業報告書

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

学校法人志学学園

専門学校ワールドオプティカルカレッジ

Ⅰ．学校の概要

１．学校の教育方針

「認定眼鏡士」から国家検定資格「眼鏡作製技能士」への資格制度移行期間でもあり、学年に合わせた資格取得への道を明示すると同時に、お客様対応のできる真の専門性を高める授業を行う。ベースは、コミュニケーション力、深く広い教養、的確な判断力と行動力、臨機応変性、創造性の修得をしつつ、高度な眼鏡知識技術を身に付ける。

① 多様な時代の変化に対応できる応用力のある専門的知識と技術の習得をはかる。
② 幅広い視野と良識を持つ豊かな人間性の形成をはかる。
③ 自らの職業能力を証明する職業資格の取得を目指す。
④ 職業人としてのビジネスマナーおよびコミュニケーション能力の育成をはかる。
⑤ 異文化を理解し、国際的に活躍できる人材の育成をはかる。
⑥ 自主性・自律性を高め、それぞれ個々の能力の伸長を目指す。
⑦ 職業人として生涯自分の支えとなるチャレンジする姿勢と諦めない姿勢を育む。

授業方針

①国家検定資格「眼鏡作製技能士」の取得。
②スペシャリストとして業界、企業、店舗にて他をリードできる人材の育成。
③お一人おひとりにお合わせしてお客様ご満足の実現ができる人材の育成。
④自立独立を目指す人材の育成（自ら考え行動する力を養う）。
⑤英語力の向上（コミュニケーション力の強化）英語スピーチ。

２．学校法人の沿革

1989 年　学校法人志学学園設立認可
1989 年　校名『専門学校ワールドオプティカルカレッジ』としてスタート
　　岡山県より「工業専門課程」として認可
1997 年　岡山県より「医療課程」として認可

３．設置する学科・コースと総定員（2024 年 4 月 1 日現在）

学科	コース	修業年限	総定員数
第一眼鏡科	全日	3 年	40 名／年
第二眼鏡科	全日	2 年	40 名／年
通信教育科	通信	2 年	40 名／年

４．学生数の状況について（2024 年 5 月 1 日現在）

学科	1 年	2 年	3 年	総学生数
第一眼鏡科	8	6	5	19 名
第二眼鏡科	0	0		0 名
通信教育科	7	19		26 名

５．役員・評議員の概要（2024 年 4 月 1 日現在）

理 事：　6 名

監 事：　2 名

評議員：14 名

６．役員名簿（2024 年 4 月 1 日現在）

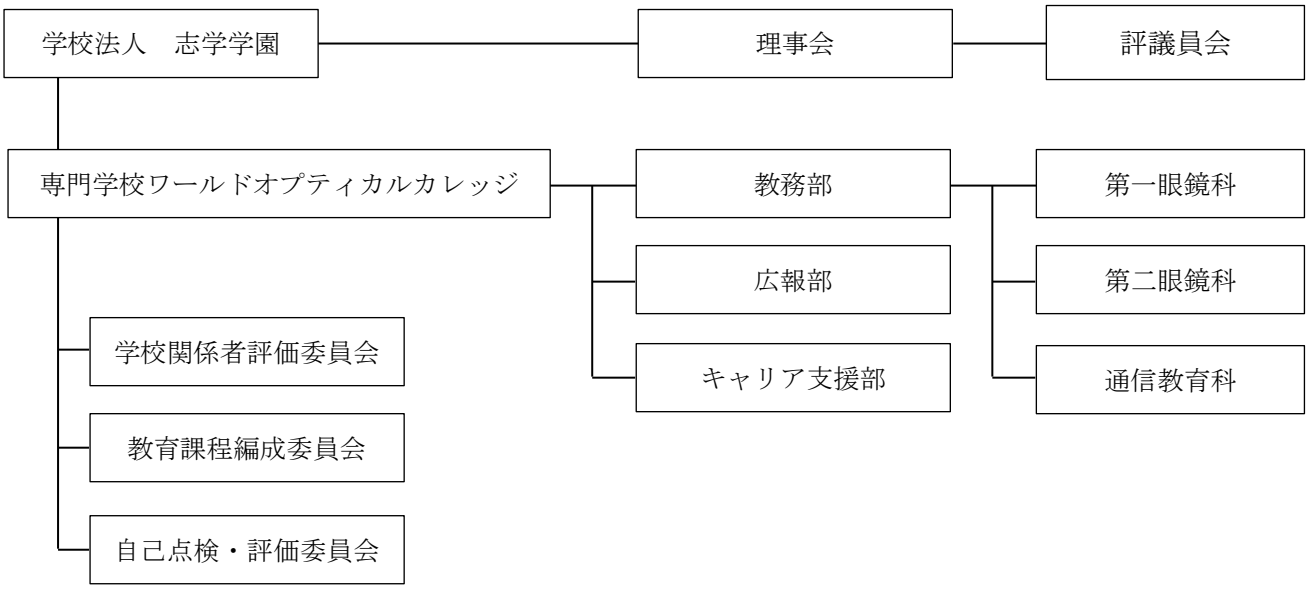
理事長　兼　理事	常勤	棚田　真文
理事	常勤	古賀　茂樹
理事	非常勤	田淵　昭雄
理事	非常勤	金光　義弘
理事	非常勤	加計　役
理事	非常勤	岡部　芳彦
監事	非常勤	中原　健二
監事	非常勤	木村　竜

６．教職員の概要（2024 年 4 月 1 日現在）

教職員：7 名　　兼任講師：19 名

７．組織図 学校法人　志学学園

2023 年度（令和 5 年度）組織図



Ⅱ 事業の概要

１．学習について

（１）概要

▫ 2023 年度は、コロナが明け、通常の学校生活となった。コロナ禍で活用できたリモート講義の利点を生かして、必要に応じて zoom を活用したオンライン授業を行った。

▫ 第一眼鏡科、第二眼鏡科の全日制学科は、予定していた学校行事においてはすべて開催でき、校外で学ぶ体験型行事は予定通りに開催できた。実習に伴う移動や飲食にも十分注意して、学生のとって実りのある研修になったと思う。

▫ コロナの影響で中止していた近隣のコミュニティ活動や訪問型のボランティア授業の再開は進んでいない。対象が高齢者の皆様ということもあり、今後も配慮が必要な活動である。

▫ 通信教育科においては、対面型スクーリングを開催し、VOD で事前に理論を学んでから集中的に実習をメインの構成で進めた。

（２）資格・検定の取得状況について

卒業年次生（2023 年 3 月 31 日現在）　※3 年間の実績（退学者除く）

資格検定名	国家資格	受験者数	合格者数
サービス接遇検定 2 級			
認定眼鏡士 SS 級		3	3

２．卒業年次生の就職・内定状況について

◇コース別内定者数一覧（2023 年 3 月 31 日現在）

コース	希望者	内定者	備考
第一眼鏡科	3	3	
第二眼鏡科	－	－	

▫ 第一眼鏡科の学生は希望者全員が希望の企業に内定をいただいた。本校は眼鏡という専門的な学びをしているため、眼鏡店からの求人も多いことと、学校への入学時に方向性が決まっていることで学生の志望理由が明確であることが強みである。

３．学生募集状況について

◇2024 年度コース別入学者数一覧（2024 年 5 月 1 日現在）

コース	出願者	入学者	備考
第一眼鏡科	8	8	
第二眼鏡科	0	0	

2024 年度入学に向けた募集活動は、対面型の合同説明会が解禁になり、本校の特長を高校生へ向けて PR する機会が増えた。各学生の動きを終始読み切れず、オープンキャンパスへの参加者数を伸ばすことに苦心した。オープンキャンパスに来校⇒入学への率は高めることが出来てきたが、全体の参加数が少な

いため、SNS の活用や学校の存在を周知徹底する改善が必要。

４．その他

▫ 学生の習熟度を高めるために、金光理事より SL（Support of Learning）教室を設け、学生が集い学びのサポートする場をつくってはどうかと提案いただき、2023 年 4 月より実行することになった。今までは個別の対応をしていたが、先生にも聞ける、先輩にも聞けるなど分からないことを教えてもらうなど敷居を低くして、多くの学生が気軽に質問できる環境をつくることで、個々の習熟度 UP の効果を期待する。

以上